

自尊心傷つけないで

最近、少子化になっていることもあって、子どもたちの「こころ」の問題がクローズアップされています。中でも注意欠陥多動性障害（ADHD）という、子どもの時に見られる脳の発達障害に注目が集まっています。

ADHDが起る原因は分かっていますが、脳の神経伝達物質であるドーパミン等が不足することによって起こると考えられています。集中力が続かない「不注意」、落ち着きがない「多動性」、思いついた行動を取ってしまう「衝動性」という三つが特徴的な症状です。しかし、これらの症状があっても日常生活

注意欠陥多動性障害



福井大病院 子どものこころ診療部
友田 明美教授

に支障がなければ心配はいりません。

ADHDでは集中力が続かない、忘れっぽい、落ち着きがないと言った特性が現れます。こうした行動は子どもなら誰にでも見られるため、周囲から「障害」という認識を持つてもらえない事があります。

ADHDは発達障害であり、しつけが悪いこととはまったく関係はありません。しかし、こうした子どもたちは否定的な評価を受けやすいため、自信を無くしてしまう事があります。重要なのは周囲の理解や適切なサポートです。子どもたちの明るい未来の為に、ADHDを正しく理解していただき。

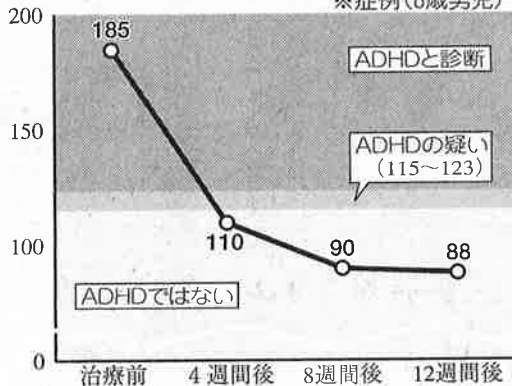
周囲の正しい理解大切



集中力が続かないのもADHDの特徴のひとつ

注意集中力検査での治療効果

※症例(8歳男児)



三人に一人は大人になってもADHDであると言われています。子どものころに周囲から否定的な評価を受ける事により、自尊心が傷ついてしま

る事が多いとされています。適切な治療を受ける事が大切です。現在の治療法としては、社会心理学的な治療と、ドーパミン等の神経伝達をスムーズにさせる薬による治療が行われています。どちらも子どもたちが充実した生活を送ることができるようになるように、福井大病院子どものこころ診療部は、子どものこころの問題の診断・治療を専門とします。

「落ち着きがない」というADHDの特徴も、言い換えれば「元気がよい」「周りを常にみている」「遊びまわることがある」とも言えます。歴史を指しています。

悩んでいる保護者の皆さんは、ぜひ、遠慮なく相談にきてください。